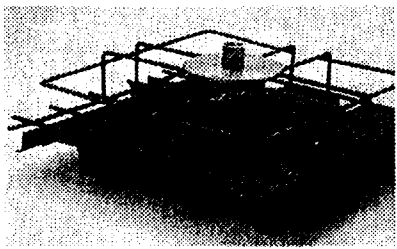


機 械

ヨシカワ
機械

二重構造で安全向上

斜面の崩落防止で新装置



【松江】機械部品メーカーのヨシカワ機械（島根県出雲市、吉川富久社長）は、山の斜面などの崩落防止用として「YSロックボルト逆巻き支圧装置」の写真を開発、受注活動を始めた。従来工法に比べ、工費を四割削減できる。

新装置は縦横約六十センチ、高さ約二十センチ。二種類の支圧板を使った二重構造で、

施工現場で鉄筋などを組み合わせて枠を作る従来工法に比べ、モルタルなどの材料を三分の二程度に減らせ、現場作業を省ける。価格は装置本体が九千八百円。月千台の生産を自指す。

支圧板とボルトを使って斜面の上部から施工する逆巻き工法を開発した建設省

の苦田ダム工事事務所（岡山県津山市）の依頼で装置を開発した。同ダムに納入を始めており、今後、道路やトンネルの出入り口など幅広く需要を掘り起こす。

ボルトで施工コスト減

ヨシカワ機械 斜面支圧装置を発売

ヨシカワ機械(社長・吉川富久氏、島根県出雲市、☎0853・25・3456)は、従来工法に比べ施工コストを一〇―四〇%削減できる斜面支圧装置「Yロックボルト逆巻き支圧装置」を発売した。

同装置は法(のり)面と

組み。支圧板は二重構造になつており、長期にわたつて安定的に斜面を固定できる。

モルタルでフレームをつくりながら地盤を固める従来工法に比べ、作業が簡単でモルタルの使用量も少なく、施工コスト削減につながる。二層間隔で斜面に設置することで広い面積にも対応できる。価格は一万百五十円から。月間一千台の販売を見込んでいる。

建設・住宅・不動産

建設・住宅・都市開発

鉄道高架橋の耐震補強工法

既存建築物に適用

奥村組

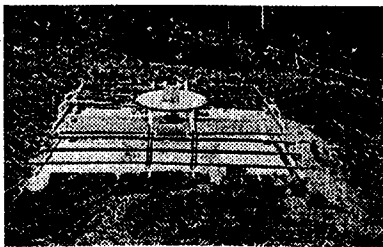
奥村組は鉄道高架橋の耐震補強工法として開発した「スパイラル筋巻立耐震補強工法」を既存建築物の鉄筋コンクリート柱にも適用

この工法はあらかじめ加工した高強度スパイラル筋を既設の柱に巻き付け、その上に所定の厚さまでモルタルを吹き付けて仕上げ

る。タイル張りも簡単。特徴は①型枠を使用しないので工期が短い②スパイラル筋は高強度鉄筋を使用するため径が細く手で巻き

立てることができるため施工性がよいなど。この工法はすでに京阪電気鉄道、阪神電気鉄道、西武鉄道などの高架橋補強工事に実績があるが、今後、旧耐震基準で建てられた八一年以前の建物の耐震補強工法として積極的に売り込んでいく。

面、月産千台が目標。装置は逆巻き工法を開発



の安全を確保する。一次支圧板と法面を安定させる二次支圧板の合成構造で、現場施工での省力化と安全管理が図れるのが特徴。従来工法に比べ、モルタルなどの材料も約三分の二で済む。

コスト30%削減

ワ 械
シ 機

法面施工用「V」Sロックポルト逆巻き支圧装置

【松江】ヨシカワ機械(島根県出雲市矢尾町4-3)3、吉川富久社長、0853・250・3456は、

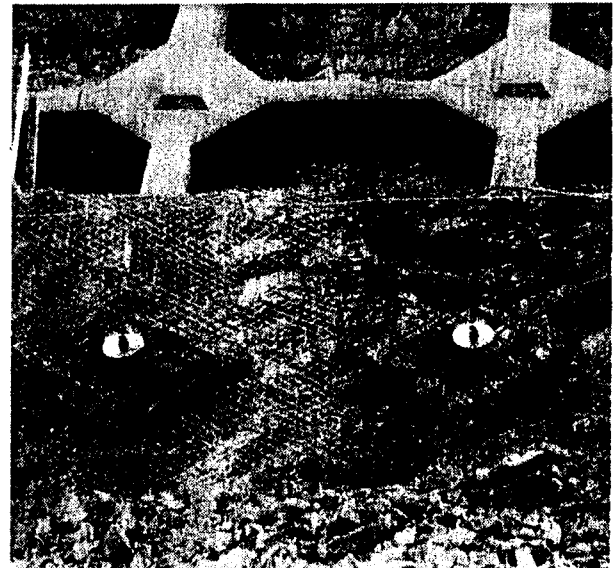
法面施工用「V」Sロックポルト逆巻き支圧装置Ⅱ写真を開発、発売した。地の山の切り取りに伴う土塊崩

壊を防止する装置で、従来の枠組み工法に比べ、コストを三〇％程度削減でき、価格は九千八百円。当

した中国地方建設局吉田土木工事務所の依頼で開発した。本体サイズは六百十四×六百十四×二百ミリ。法面にロックポルトを打ち込んで二層間隔で設置し、モルタルで固めて全体を固定、施工時から長期間法面

ほかの工法に比べ二割以上のコストダウンが可能という。一階を柱だけで支えたロティ建築の独立柱の耐震補強工法として採用を働きかける。

コスト削減 安全性も大幅アップ



支圧板ロックボルト
逆巻き工法施工状況

法枠施工で

新装置開発

装置本体の価格はサイズにより九千八百円〜一万四千八百円。月千台の生産を目指す。

機械部品メーカーの(株) ヨシカワ機械(出雲市矢尾町、吉川富久社長)は、のり枠施工の新技術として「YSロックボルト逆巻き支圧装置」を開発した。

ヨシカワ機械

新装置は標準サイズが縦横約六十センチ、高さ約二十センチで、地質条件などにによるサイズの調節も可能。のり面に約二層間

次支圧を施す。切土後の不安定なのり面に対し、安定領域と滑り土塊のせ断補強、土塊の拘束に

隔でロックボルトを打ち込み、敷モルタル施工後に一次支圧板を設置、モルタルなどを吹き付け二層間

施工時の安全管理を飛躍的に向上。従来工法に比べコストも一〜四割削減

施工現場で鉄筋組み立てを行う従来工法に比べ、モルタルなどの材料を三分の二程度に減らせ、現場作業も大幅に省力化。

幅広く需要を掘り起こす。※問い合わせは(株)ヨシカワ機械 電話0853

X(25) 3456 FA
X(25) 3457